

## 登録橋梁基幹技能者 2023年度試験問題

### [解答作成の注意事項]

1. この試験問題は、四肢択一式 50 問で全て必須です。問題ごとに正解は1つしかありません。1問につき2つ以上解答すると、その問題の解答は無効になります。
2. 解答は、**解答用紙に記入**してください。
3. 試験問題用紙及び解答用紙の所定欄に、受講番号を記入してください。（氏名を書く欄はありませんので、受講番号を間違えないように注意してください。）
4. 解答記入は鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから新しく記入してください。

### [その他の注意事項]

1. 試験係員の「始め」の合図があるまで、試験問題の内容を見てはいけません。
2. 「始め」の合図があったら、ただちにページ数の不足および印刷の不鮮明なところがないことを確かめてください。もしあったら取り替えますので、手をあげて試験係員に申し出てください。
3. 試験問題の内容についての質問には、お答えできません。
4. 式あるいは文章等を記憶する機能を有する計算機機器（例えば、関数電卓、ポケットコンピュータ、スマートフォン、携帯電話、電子手帳等）は、使用を禁止します。
5. この試験の解答時間は、「始め」の合図があつてから **1 時間 30 分**です。**試験開始後 1 時間および終了前 10 分間は退場できません。**
6. 試験開始後 1 時間から試験終了前 10 分までの間に途中退場を希望する人は、解答用紙および試験問題用紙を机の上に裏返しにしておき、手をあげてから、試験係員の指示を得て、静かに退場してください。ただし 16 時 30 分から終了式を行いますので、時間になったら席についてください。
7. 「終り」の合図があったら、ただちに解答の作成をやめ、解答用紙を机の上に裏返しにし、試験係員が回収するまでそのまま待っていてください。試験終了後は試験問題用紙も回収します。

受講番号

## 安全管理の問題

安全管理に関する次の1)～5)の文章で、( )に当てはまる語句のうち正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- 1) 生産活動に従事していた労働者が被災した災害を労働災害といい、単なる物的損傷のみの場合は含まず、労働者の生命および身体にかかわる災害に限られる。労働災害としては、死亡・負傷はもちろん、有害物質に長期間曝露されることにより生じる( )や職業性疾病も含まれる。
- ① 自己疎外
  - ② 健康障害
  - ③ 薬物中毒
  - ④ ストレス
- 2) 労働災害に伴う事業者の四重責任のうち刑事責任として、( )にもとづく、事業者に対する危険防止措置、管理等の措置違反および従業員の違反行為に対する罰則がある。
- ① 職業安定法
  - ② 建設業法
  - ③ 労働安全衛生法
  - ④ 道路交通法
- 3) 平成18年から、建設業の事業者は危険性又は( )等の調査(リスクアセスメント)を実施し、その結果に基づいて検討した災害防止対策を実施して、未然に労働災害を防ぐことが求められるようになった。
- ① 有害性
  - ② 重大性
  - ③ 安全性
  - ④ 有効性

4) 高さまたは深さが（ ）以上の昇降には、昇降設備を設置しなければならない。

① 1.0 m

② 1.5 m

③ 2.0 m

④ 2.5 m

5) 鋼橋の架設において、金属性部材により構成されているもので、その高さが5 m以上または橋梁の支間が30 m以上である部分の作業には、（ ）を選任しなければならない。

① 足場の組立等作業主任者

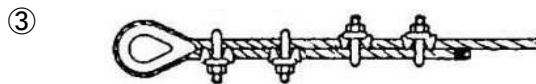
② 鋼橋架設等作業主任者

③ 作業指揮者

④ 主任技術者

- 6) 危険予知活動（KYK）の留意事項に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 危険項目が多く出た場合は、重要なものに絞る。
  - ② 一日のなかで作業内容が変更した場合は、あらたに最初から行う。
  - ③ 前日と同じ作業の場合は、前日と同じ内容にする。
  - ④ 黒板等を書く内容は要領良く、短くまとめる。
- 7) 足場からの墜落防止のための措置に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 足場材の緊結、取り外し、受け渡し等の作業においては、作業床の設置が困難なため、墜落防止のためのネットを設置する。
  - ② 高さが2 m以上の作業床については、床材と建地の隙間を12 c m未満とする。
  - ③ 作業の必要上臨時に手すり等を取り外した際は、その必要がなくなった後直ちに取り外した設備を現状に戻す。
  - ④ 足場の組立て・解体または変更の作業に係る業務を行わせる作業者には、所定の特別教育を実施しなければならない。
- 8) 2019年2月1日に施行された、墜落制止用器具（安全帯）に係る安全衛生法令の改正に関する記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 高さが2 m以上の箇所でフルハーネス型墜落制止用器具を使用させる場合は、作業内容・条件に係らず、すべての労働者にあらかじめ所定の特別教育を受けさせなければならない。
  - ② 墜落制止用器具は、着用者の体重及びその装備品の重量の合計に耐えるものでなければならない。体重が85kgを超える労働者であれば、「100kg用」を使用しなければならない。
  - ③ 柱上作業等で使用されるU字つり胴ベルトは、墜落制止用器具としては認められないため、2 m以上の高所作業で使用する場合は、フルハーネス型等の墜落制止用器具と併用することが必要となる。
  - ④ 墜落制止用器具は「フルハーネス型」が原則となるが、フルハーネス型の着用者が墜落時に地面に到達するおそれのある場合（高さ6.75m以下）は、「胴ベルト型（一本つり）」を使用することができる。

- 9) ワイヤー端末をクリップ止めする場合、正しい止め方、適切なトルクで締め付けること、また、適切な増し締めの実施等が必要であり、誤った取り付け方をした場合、ロープが抜けて大事故につながる恐れがある。以下の図のうち、クリップ止めの方法として正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。



- 10) 「鋼橋架設工事における墜落事故防止対策（日本橋梁建設協会）」による、橋梁架設工事における墜落事故の様態に関する記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 足場の組立・解体時の事故が最も多く、墜落事故全体の3分の1程度を占めている。
- ② 墜落事故のほぼ全てのケースで、安全带・親綱等は適切に使用されていた。
- ③ 被災者の入場後日数については、個々の事故によってバラつきがあるものの、25日以内のケースが、極めて高い比率を占めている。
- ④ 被災者の年齢については、全体では10代から60代まで幅があるものの、足場の組立・解体時では、特に35歳以下の若い作業員に集中している。

## 架設概論の問題

- 11) 遵守法令における届け出先について、(ア)、(イ)に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

項目	関係法令	内容	申請限度
施工計画書 → (ア)への届け出	労働安全衛生法88条 労働安全衛生規則89条	・支間500m以上の橋梁 ・支間1000m以上の吊橋 ・高さ300m以上の塔	作業開始 30日前
建設物, 機械等設置届 → (イ)への届け出	労働安全衛生法88条 労働安全衛生規則87条	・吊足場, 枠組み足場 (高さ10m以上) (組立～解体の期間60日以上)	作業開始 30日前

### 解答群

- ① ア：労働基準監督署                      イ：厚生労働大臣  
 ② ア：労働基準監督署                      イ：労働基準監督署  
 ③ ア：厚生労働大臣                          イ：労働基準監督署  
 ④ ア：厚生労働大臣                          イ：厚生労働大臣

- 12) I桁一本を吊上げ架設するときは、横倒れ座屈に留意する必要がある。横倒れ座屈の判定基準として、(ア)、(イ)に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

### 中間部

$$l_s / b_u \leq \text{(ア)}$$

### 片持部

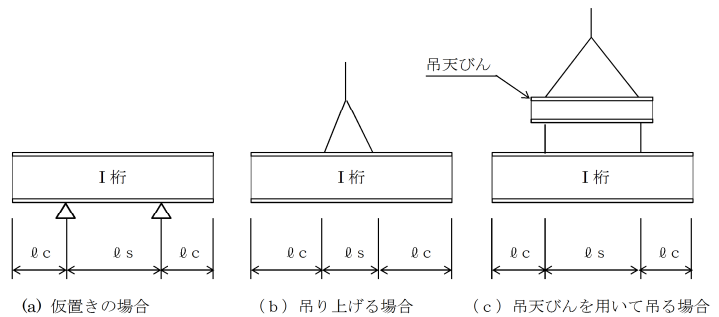
$$l_c / b_l \leq \text{(イ)}$$

ここに、

$b_u$  : 上フランジ最小幅

$b_l$  : 下フランジ最小幅

$l_s \cdot l_c$  : 右図に示す支持間隔



### 解答群

- ① ア：70                      イ：70  
 ② ア：35                      イ：35  
 ③ ア：35                      イ：70  
 ④ ア：70                      イ：35

13) ベント工法における留意事項について、次の記述のうち誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 地耐力が均等に得られるように整地する。
- ② ベント組立途中は、支柱・控え索等で転倒防止を行う。
- ③ 架設途中にベント基礎を確認する。
- ④ ベント解体は、常に組立と反対の方法で行う。

14) 送出し工法における留意事項について、次の記述のうち誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 送出し方向を常に確認し、ズレがあれば作業を中止して方向修正する。
- ② 作業中止時は、桁移動・転倒防止を各支点で行う。
- ③ 橋台・橋脚は、作業床となるため安全設備を設置する。
- ④ 送出し設備は鉛直力のみに対応し、水平力については考慮する必要がない。

15) サンドル式降下の特徴について、次の記述のうち正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 構造が単純で運搬単位が軽量である。
- ② 桁重心がサンドル上面より上にあり安定性が高い。
- ③ 作業時間が制約されるケースで多く採用されている。
- ④ 降下量が4 m以上の場合に採用される。

16) 「鋼橋架設工事の事故防止対策（日本橋梁建設協会）」における、ベント等の支持・転倒・滑動に対する安全性の照査の記述のなかで、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 下フランジの勾配など、ベント等の支持位置における個別要因による橋軸方向の水平荷重を適切に考慮し安全性照査を行う。
- ② ベント等の基礎形式は、地盤に関する調査結果に応じて、敷き鉄板、コンクリート基礎、地盤改良、杭基礎等、適切な工法を選択する。
- ③ 載荷時の安定計算は、橋軸直角方向に加え橋軸方向についても実施する。計算により所定の安全性が確保できる場合は、いかなる状況においてもフェールセーフ措置の必要はない。
- ④ 橋桁の支持位置（載荷位置）はベント等の重心位置から偏心させないように設計・施工することを基本とし、転倒に対する安全性照査を行う。

17) 「鋼橋架設工事の事故防止対策（日本橋梁建設協会）」における、目視点検及び定時計測項目の抽出と実施の記述で、（ア）、（イ）に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

仮設構造物の以下の各項目については、毎日の始業時のほか、新たな載荷状態の開始後における変化の有無について、目視点検を行う。

- 1) （ア）の状態
- 2) ベント等の基礎部分の健全性
- 3) 仮設構造物 梁・柱部材の健全性
- 4) （イ）の健全性

解答群

- ① ア：気象      イ：塗装
- ② ア：地盤      イ：仮支点
- ③ ア：気象      イ：仮支点
- ④ ア：地盤      イ：塗装



18) ケーブルエレクション工法の留意点に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① アンカーブロックのコンクリートは、打継ぎ目をつくらないように打設する。
- ② ワイヤクリップは張力が増加すると緩むため、設置時に十分な締付けとマーキングを行えば増締めを行う必要はない。
- ③ トラックケーブルの組立・解体は、おしみロープを用いてワイヤの逸走を防止する。
- ④ 現場でクレーンを組立てるため、事前調査が重要である。

19) トラベラクレーン片持ち式工法の選定条件について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 架設地点に搬入路があり、自走クレーンが設置出来る。
- ② 橋梁本体にトラベラクレーンの設置が簡単な構造であること。
- ③ 架設位置が高く、ベント等の仮設構造が大きくなる。
- ④ 航路制限等によりベントの設置が出来ない。

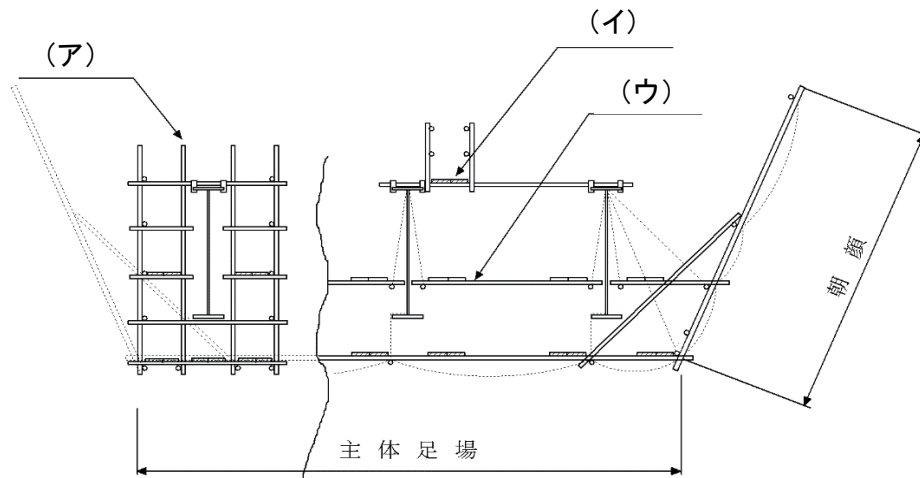
20) 片持ち式架設工法には最も適していない橋梁形式を、①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 連続箱桁橋
- ② 連続アーチ橋
- ③ 連続鈹桁橋
- ④ 連続トラス橋

21) 大型搬送車による一括架設工法の選定条件について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 架設位置付近に橋体の地組ヤードが確保できない。
- ② 大型搬送車が地組ヤードから架設位置まで走行が可能である。
- ③ 大型クレーンの組立、据付け場所はない。
- ④ ベントの設置が不可能である。

- 22) 下図の架設足場の名称において、（ア）～（ウ）に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。



解答群

- ① ア：安全通路    イ：部分作業床    ウ：中段足場
- ② ア：部分作業床    イ：安全通路    ウ：中段足場
- ③ ア：安全通路    イ：中段足場    ウ：部分作業床
- ④ ア：中段足場    イ：安全通路    ウ：部分作業床

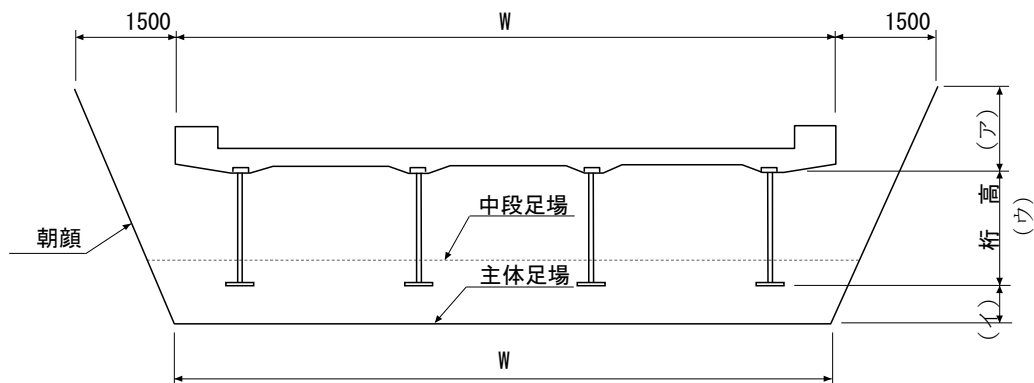
- 23) 足場に使用する安全ネットの使用条件に関する記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 人体と同等の重さを有する落下物により衝撃を受けたネットは、使用してよい。
- ② 破損した部分が補修されていないネットは、使用してはならない。
- ③ 網糸が、規定強度を有しないネットは、使用してはならない。
- ④ 強度の明らかでないネットは、使用してはならない。

24) 足場からの墜落防止措置を検討する際の基本的な考え方について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 各現場の実情に応じた安全対策を設計、計画段階から検討すること。
- ② リスクアセスメントの観点を踏まえて検討し、実際に足場上で行われている労働者の作業の実態等は考慮しない。
- ③ 作業性の低下や不安全行動等により新たなリスクが誘発されないよう、本質的な安全対策を優先的に採用するよう努めること。
- ④ 検討した対策を適切な管理のもとに総合的に実施すること。

25) I 桁吊り足場の構造標準で、下図の（ア）～（ウ）に該当する数値の組合せで、正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

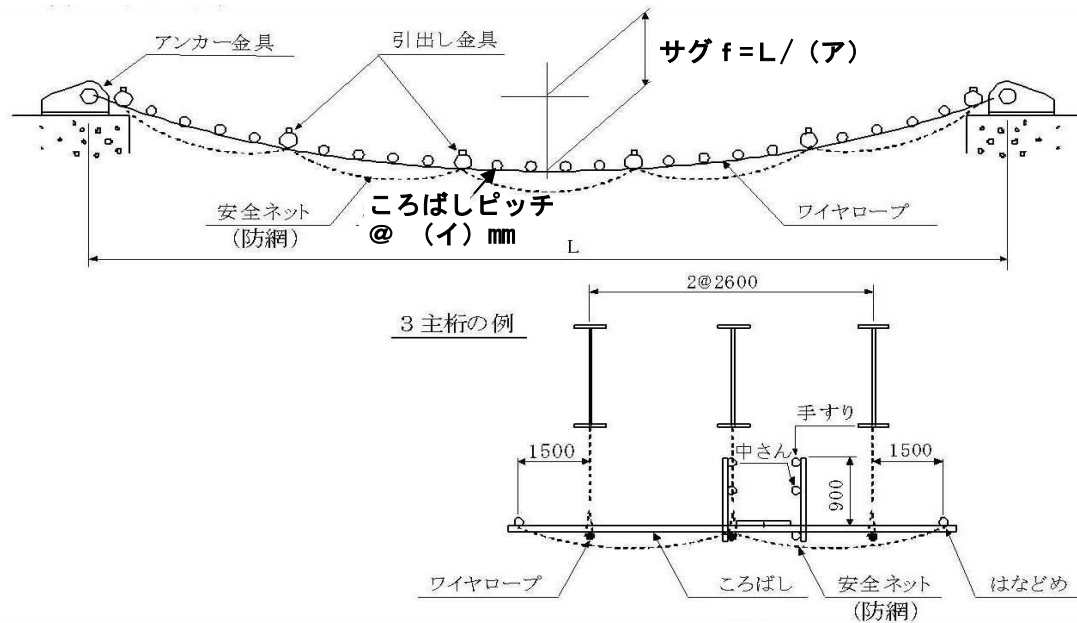


1. 朝顔は、床版工事における作業性及びコンクリート打設時のはね返りを考慮し、主桁上面から（ア）mの高さを標準とする。
2. 桁下端から主体足場上面までは（イ）mmを標準とする。
3. 中段足場は桁高が（ウ）mを超える場合に設置し、桁高が3.3mを超える場合には、1.8m増すごとに増設することを標準とする。

解答群

- |   |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|
| ① | ア：1.0 | イ：400 | ウ：1.3 |
| ② | ア：1.0 | イ：600 | ウ：1.3 |
| ③ | ア：1.3 | イ：400 | ウ：1.5 |
| ④ | ア：1.3 | イ：600 | ウ：1.5 |

- 26) ワイヤブリッジの図および記述について、(ア)～(ウ)に該当する数値の組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

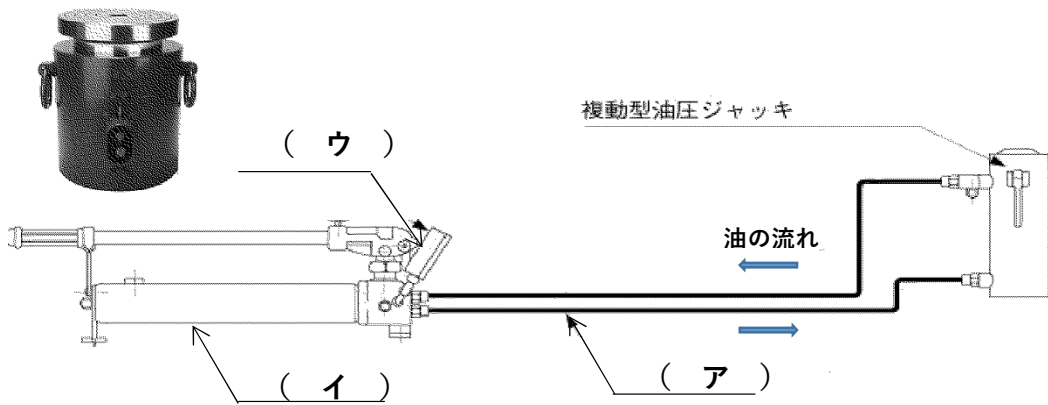


注) ワイヤブリッジの安定性確保のため、ワイヤ本数(ウ)本以上とする。

解答群

- |   |       |        |      |
|---|-------|--------|------|
| ① | ア: 6  | イ: 600 | ウ: 2 |
| ② | ア: 6  | イ: 900 | ウ: 3 |
| ③ | ア: 24 | イ: 900 | ウ: 4 |
| ④ | ア: 12 | イ: 900 | ウ: 3 |

- 27) 下図の鉛直ジャッキの名称において、(ア)～(ウ)に当てはまる名称で正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。



解答群

- ① ア： 押し側油圧ホース    イ： 手動ポンプ    ウ： 圧力計
- ② ア： 押し側油圧ホース    イ： 圧力計    ウ： 手動ポンプ
- ③ ア： 戻し側油圧ホース    イ： 圧力計    ウ： 手動ポンプ
- ④ ア： 戻し側油圧ホース    イ： 手動ポンプ    ウ： 圧力計

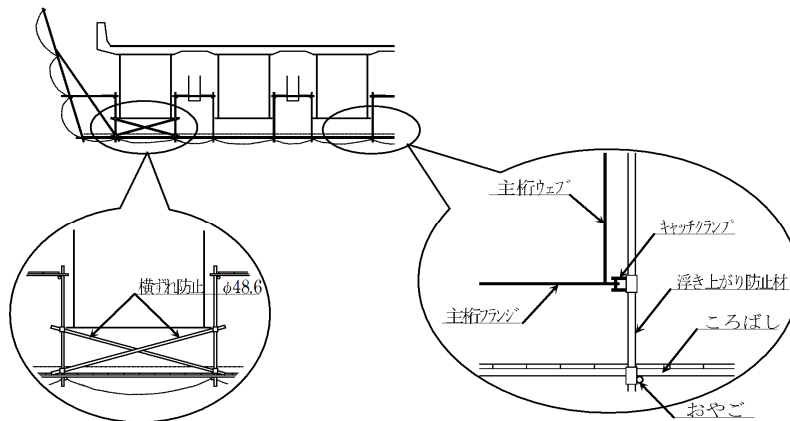
- 28) 油圧ジャッキの種類に関する記述で、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 桁送出し装置  
送出し架設の時に、送出し装置で桁を送り、仮受けジャッキで盛替えるという作業を繰り返す方法で行う装置。
- ② ワイヤ定着式ジャッキ  
PC鋼線をチャック装置で固定し、桁を吊上げたり、牽引したりする装置で、チャックは上下についており、ジャッキ伸長と盛替えを繰り返しながら作動する機構となっている。
- ③ 補修用ジャッキ  
補修工事における支取替時の仮受け作業に用いる。供用下での工事となるため、安全ナットといったロック機構を有し、機高が高くなっているのが特徴。
- ④ キャタピラ式送出し装置  
従来ローラー支点となっていたところに代わって、本装置を用いることで受圧幅が確保され、桁の局部座屈による補強を軽減でき、さらに鉛直に上下するジャッキ機構を有することで、キャンバーや反力を管理しながら送出することが可能。

- 29) 足場崩壊の事例から、事故防止対策として最も適していないものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

高架橋の建設現場で、台風による強風にあおられて吊足場の作業床が飛散した。事故当日、現場近辺の最大風速（10分間平均）は35m/sであった。

足場の損傷状況や現場近辺の実測値から風向・風速を推定し、作業床の飛散メカニズムを風洞実験で検証した。その結果、風向きが橋軸に対して30～50度の範囲で、吊足場の作業床に上向きの風荷重が生じることがわかった。そのメカニズムは、橋脚に遮られてよどんだ風が後から吹いてくる風に当たって圧縮され、その際に生じる風圧によって作業床が押し上げられ飛散したというものであった。

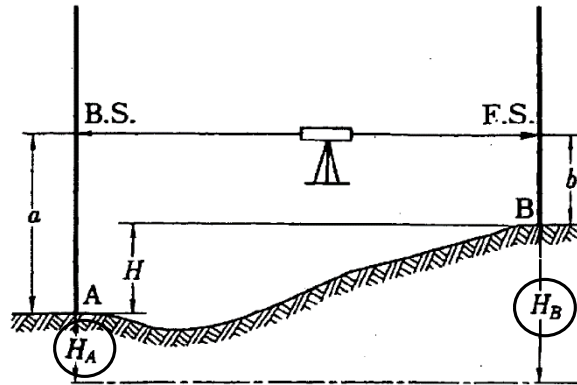


- ① 風荷重は架設地域、地形、既設を考慮して設定する。
- ② 吊足場の作業床に作用する上向きの荷重にも耐えられるように吊足場を補強する。
- ③ 単管パイプを介して、足場の作業床と主桁の下フランジを連結する。
- ④ 鉄道や道路などの重要な交差部でも、通常地域と同じ設計風速を設定する。

- 30) 水準測量において ( ) に当てはまる正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

点Aの地盤高 $H_A$ が4.321mと既知な時に、レベルにて点Aと点Bに立てた箱尺の読みが、 $a$ が2.334m、 $b$ が1.122mならば点Bの地盤高 $H_B$ は ( ) となる。

- ① 0.865m
- ② 7.777m
- ③ 3.109m
- ④ 5.533m



- 31) 橋梁工事の測量に関する記述で、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 架設時の測量は、適切な手法・機器を用いて、必要な精度を確保するために、施工の各段階で実施する。
- ② 上部構造物の中心線と、それぞれの下部構造物の中心線との誤差を測定し、上部構造物の据付位置を決定する。
- ③ 所定の位置に正しく設置するための測量は、工場で製作された構造物の寸法を、工場仮組立記録書等により確認するとともに、上部構造物の据付位置を測定し、基礎構造物の位置を決定する。
- ④ 測量機器にはトランシット、レベル、光波測距儀等があるが、最近では、GPS測量が発達し、長距離測量に精度の高い数値が短時間に得られるようになった。



## 工程計画・作業手順の問題

- 32) 施工計画の目的について、(ア)、(イ)に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

施工計画の目的は、契約書・図書に基づいて該当の橋梁を(ア)かつ(イ)な施工で、所定の工期内に収めるための方法を定めることである。

解答群

- |   |       |       |
|---|-------|-------|
| ① | ア：安全  | イ：経済的 |
| ② | ア：高品質 | イ：経済的 |
| ③ | ア：高品質 | イ：高技術 |
| ④ | ア：安全  | イ：高技術 |

- 33) 工程計画について、(ア)～(ウ)に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

工程計画の直接の目的は工期の確保であるが、工事の進め方(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)、(オ)を決める計画でもあるので、工事の安全、(ウ)、(エ)、(オ)はこれによって決まると言える。

解答群

- |   |        |        |        |
|---|--------|--------|--------|
| ① | ア：作業手順 | イ：人員   | ウ：施工速度 |
| ② | ア：作業手順 | イ：作業時間 | ウ：品質   |
| ③ | ア：工法   | イ：人員   | ウ：品質   |
| ④ | ア：工法   | イ：作業時間 | ウ：施工速度 |

- 34) 作業手順に関する記述について、(ア)、(イ)に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

現場での災害の原因を調べてみると、設備や環境などの不安全な(ア)によるものと、作業員の不安全な(イ)によるものが組合わされて発生している。

解答群

- |   |        |        |
|---|--------|--------|
| ① | ア：コスト  | イ：施工速度 |
| ② | ア：状態   | イ：行動   |
| ③ | ア：施工計画 | イ：作業手順 |
| ④ | ア：工程   | イ：品質管理 |

- 35) 工程図表に関する記述について、(ア)、(イ)に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

工程図表の特徴は、下記のとおりである。

- ・グラフ式工程表の特徴は、(ア)。
- ・ネットワーク式工程表の特徴は、(イ)。

解答群

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| ① ア：作業の進捗が明確に示せる    | イ：作業に要する日数が分かりやすい |
| ② ア：作業に要する日数が分かりやすい | イ：作業の進捗が明確に示せる    |
| ③ ア：作業の手順関係が明確に示せる  | イ：作業に要する日数が分かりやすい |
| ④ ア：作業の進捗が明確に示せる    | イ：作業の手順関係が明確に示せる  |

## 維持・補修の問題

- 36) 橋梁の維持管理についての以下の記述で、(ア)、(イ)に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。

重大な事故を未然に防ぐには、構造物の(ア)が破損・損傷しても(イ)構造の倒壊に繋がらないように配慮することが重要である。

解答群

- |        |      |
|--------|------|
| ① ア：一部 | イ：全体 |
| ② ア：一部 | イ：部分 |
| ③ ア：全部 | イ：全体 |
| ④ ア：全部 | イ：部分 |

- 37) 鋼構造物の変状に関する次の記述について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

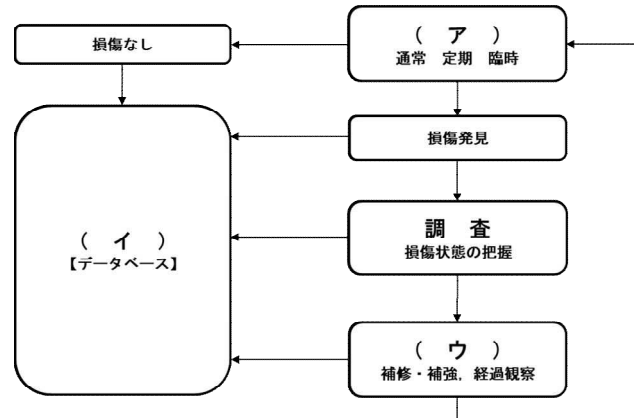
- ① 鋼構造物に発生する「疲労き裂」は、繰返し応力あるいは過大な応力集中が作用することによって生じ、初期の段階では、線状の発錆や異様な塗膜剥離として現れる。
- ② 鋼構造物に発生する「腐食」は、桁端部に比べ、支間中央部の方が多く発生する。
- ③ 鋼構造物に発生する「変形」は、部材が座屈する現象であり、補剛材の乏しい腹板や細長比の大きな二次部材に発生し易い。
- ④ 高力ボルトの遅れ破壊は、F11Tなどのボルトが突然脆性破壊する現象で、「ボルトの緩み、脱落」を起こす原因となる。

- 38) 「補修・補強」に伴うジャッキ作業についての以下の記述で、( )に当てはまる正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

橋梁上部工を上下に移動させるジャッキ作業では、本来の支承位置以外に一時的に仮支持点を設け、上部工の荷重を受け止め、下部工に伝達する方法が採られる。この仮支持点は、( )で支持するのが望ましい。

- ① 端横桁
- ② 支点付近
- ③ 支点から桁端側に離れた位置
- ④ 支点から支間中央側に離れた位置

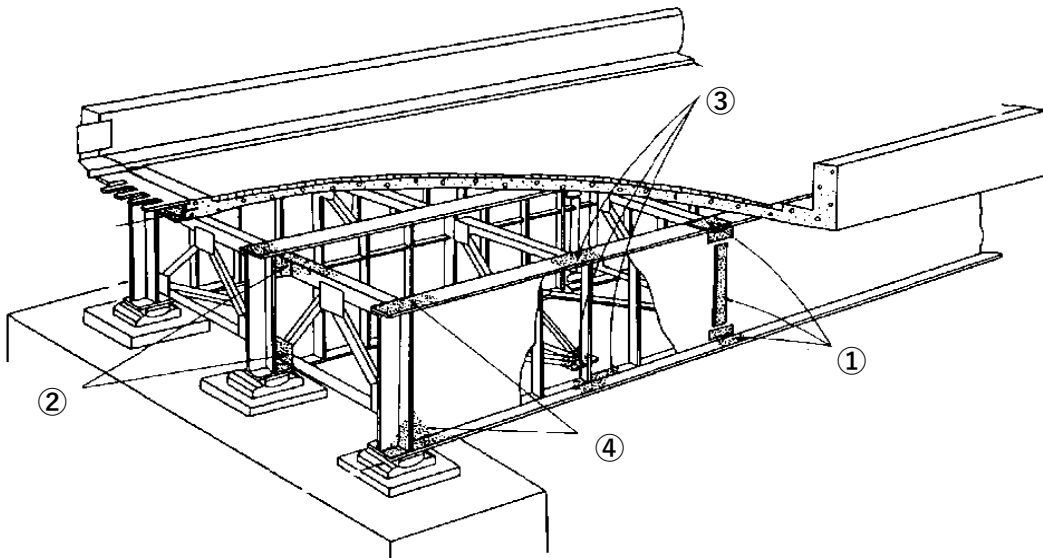
- 39) 鋼橋の維持管理・保全の概念図において、以下の（ア）～（ウ）に当てはまる組合せで正しいものを解答群①～④より選択し、その番号で答えなさい。



解答群

- |   |      |      |      |
|---|------|------|------|
| ① | ア：点検 | イ：記録 | ウ：対策 |
| ② | ア：点検 | イ：対策 | ウ：記録 |
| ③ | ア：記録 | イ：対策 | ウ：点検 |
| ④ | ア：記録 | イ：点検 | ウ：対策 |

- 40) 鋼桁橋の損傷とその原因説明について、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。



- ① 高力ボルトの締め付け軸力不足による発錆
- ② 桁端部の通気不良による発錆
- ③ 床版亀裂からの漏水による発錆
- ④ 伸縮継手からの漏水による桁端部の腐食

## 共通テキストの問題

- 41) 「登録基幹技能者の活用」に関する次の記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 登録基幹技能者を雇用・育成する優良な専門工事業者の受注機会の拡大が期待される。
  - ② 建設産業の担い手の確保・育成に大きく寄与することが期待される。
  - ③ 建設生産現場の生産性の向上が期待される。
  - ④ 建設生産現場の職場環境改善が期待される。
- 42) 「公共工事における登録基幹技能者の評価・活用」に関する次の記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 公共工事における総合評価落札方式においても評価・活用されている。
  - ② 国土交通省では、全地方整備局の半数程度で評価・活用されている。
  - ③ 令和2年度末現在で29都道府県・政令指定都市で評価・活用されている。
  - ④ 都市再生機構等の独立行政法人においても評価導入されている。
- 43) OJTは、職場の上司が部下育成のために、日常の作業を通して行う指導・教育のことである。その際の「指導・教育の基本認識」に関する次の記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 組織外の実態、考え方などに触れて視野を拡大する機会を提供する。
  - ② 上司の仕事そのものであるとの認識のもとにOJTを行う。
  - ③ 上司の能力レベルから指導育成の目標を立てる。
  - ④ OJTの実施により業績低下の言い訳になってはならないとされる。
- 44) OJTを進める上で重要なポイントは、教える相手に対して、何をどの程度教えるか把握したうえで指導することである。その際の「目標の設定」に関する次の記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。
- ① 日常の仕事を通じて行う指導・教育が可能な目標・項目であること。
  - ② 部下が責任感とリーダーシップを発揮して取り組めるものであること。
  - ③ 目標は定量的で具体的であること。
  - ④ 目標は設定期間終了時に評価が可能であること。

45) OJTを進める上で指導と仕事の与え方には深い関係がある。その際の「指導方法」に関する次の記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 指導で大切なことは、自分で考え、工夫させ、それを試させることである。
- ② 指導で大切なことは、試させた結果を評価することである。
- ③ 指導の手法には、「教える」「見習わせる」「経験させる」「自己啓発させる」などの方法がある。
- ④ 指導で大切なことは、徹底して指示通りにやらせることである。

46) 労働安全衛生法第26条には「作業員が守らなければならない6つの義務」が定められている。次の記述のうち、「6つの義務」に該当しない事項を①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 安全状態を保つ義務
- ② 保護具の着用・使用義務
- ③ 危険行動の禁止義務
- ④ 感電災害防止義務

47) 見積原価の管理の「見積時の確認事項」に関する次の記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 工程の確認
- ② 安全管理の確認
- ③ 現場条件の確認
- ④ 設計図書、施工図等の確認

48) 原価管理では、元請対応が重要である。次の記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 毎日の作業日報で契約内と契約外工事を明確にしておく。
- ② 作業日報は工事完了時期にまとめて元請に提出する。
- ③ 契約外の追加・変更工事の追加・変更契約及び支払いの請求をする。
- ④ 契約外常用工事の請求書により常用精算する。

49) 「設計品質と施工品質」に関する次の記述のうち、誤っているものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① 詳細な方法を規定しないで、求める品質を明示し、それが満たされればよいとするのが「性能規定」である。
- ② 品質には設計段階で定められる設計品質(ねらいの品質)と、施工段階で実現する施工品質(出来栄の品質)がある。
- ③ 施工品質は、設計品質に関係なく、施工実態やコスト等を考慮して無理なく実現できるよう施工者が決める品質である。
- ④ 設計図書に特定メーカーの製品を特記したり、施工方法を指示したりするなどして作り方を具体的に定めるものを「仕様規定」という。

50) 「作業標準書による施工品質の確保・向上」における「段取り八分」とは、「PDCAサイクル」の何に該当するのか、正しいものを①～④より選択し、その番号で答えなさい。

- ① P: Plan(計画を立てる)
- ② D: Do(計画に基づき実行する)
- ③ C: Check(結果と計画を比べて検討する)
- ④ A: Action(適切な処置を施す)

受講番号

採点欄

※この欄には記入しないでください

## 登録橋梁基幹技能者講習 2023年度試験問題の解答用紙

### 安全管理の問題 1) ~10)

問題	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)
解答	②	③	①	②	②	③	①	①	①	②

### 架設概論の問題 11) ~31)

問題	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)
解答	③	④	④	④	①	③	②	②	①	③

問題	21)	22)	23)	24)	25)	26)	27)	28)	29)	30)
解答	①	②	①	②	④	④	①	③	④	④

### 工程計画・作業手順の問題、維持・補修の問題 32) ~40)

問題	31)	32)	33)	34)	35)	36)	37)	38)	39)	40)
解答	③	①	③	②	④	①	②	②	①	①

### 共通テキスト問題 41) ~50)

問題	41)	42)	43)	44)	45)	46)	47)	48)	49)	50)
解答	④	②	③	②	④	④	②	②	③	①